

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 7 年 3 月 29 日

事業所名：放課後デイサービス キートス・プラス

	チェック項目	評価			意見 (工夫している点、課題など)	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
		はい	どちらとも いえない	いいえ		
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7				
	2 職員の配置数は適切である	3	4		最低限度	配置上スタッフ人数は適正ではあるが、支援においてはスタッフ数がさらに必要な場合もある。適正な支援に向けて、採用活動を継続していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	1		今一度、事業所でのバリアフリーが必要箇所がないか点検をします。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			達成出来なかった業務など次回失敗しないように心がけている	センター長とスタッフ個人でも毎月目標設定と振り返りを実施している。チーム内でも事例の共有対策などを支援準備の際に話している。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		1	保護者アンケートをもとに茶話会を実施した子どもの立場にたち、保護者の意向にそうように努力している	今後ご意見を直接うかがう場面を計画していく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		3		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3		4		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			研修で学んだことを現場では活かせるよう努めている。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		1	計画案をもとにいま何が必要かを考えながら子どもと接している。	計画書に沿った支援となるよう、スタッフにも保護者や子どもたちの話しを共有する時間を朝礼、昼礼時に設けている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		2	きちんと理解して子どもと接している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6		1	ホストとアシスタントの仕事を理解し、業務している	集団活動時に号令をかけるスタッフとホスト、それ以外のスタッフをアシスタントと呼び、役割分担を明確にして活動プログラムを実施している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		1	日々の子ども達に合わせてスタッフでも話し合い、何が適切と考えながらしている	現状の課題に合わせた活動となるように、日々話し合い、子ども達が飽きず楽しく安全に実施できるように工夫している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			時間を有効に使い、その時できることを考えてしている	クッキングや事業所外活動など、長期休暇中にしか実施できないプログラムも取り入れている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		1	日々子どもは成長しているので、状況を把握してその時にあったことをしている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			子ども達の立場に立ち、しっかりと話し合い進めている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		3	勤務時間の関係で全員揃っていないが、残っているスタッフで共有している スタッフ全員が振り返りをしてみんなでも共有している	支援後の共有が難しい場合は、翌日に繰り越し、朝礼や昼礼時に共有している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			個別課題に関して、支援が適切でもあったかを記録しながら振り返っている	
	18 定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			子ども達の現状等理解して業務にあたっている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6		1	全て理解しているとは言えないが、きちんと支援できるよう心がけている		
関係機 関や保 護	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		1		
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			子どもの連絡帳などを見せてもらったりして確認している	学校は保護者からの共有がなく、確認が及ばず送迎時刻が間違っていたりする事がある。その場合でも学校と連絡と取り有り対応している。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			7	医療的ケア児がいない。	現在は医療的ケア児がいないが、利用者のかかりつけの病院はご契約時に確認している。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4		3		
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3		4		

者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5		2	児童クラブや児童館との交流する機会が創出できていない。今後の課題として取り組んでいく。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	1	4	2	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3	1	保護者の対応力向上を図るための支援として、面談や電話での相談を実施している。保護者向けの勉強会や研修会なども今後実施していきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2		今年度は保護者茶話会を実施した。来年度も不定期ではあるが、開催していく予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	4	1	行事予定に関しては、定期的にお知らせはできておらず、イベントを実施する際のみにとどまっている。来年度は年間スケジュールを作成し、子どもたちや保護者の方へ周知していく予定。
	35	個人情報に十分注意している	7			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	2	地域住民を招待する機会はまだ持っていない。今後の課題として実施内容は検討していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	3		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2		